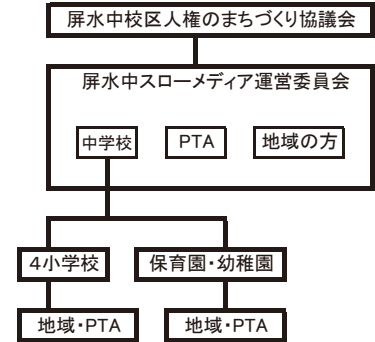


見つめようメディアとの付き合い方、育もう自己コントロール力!

福岡県久留米市		● 活動名 屏水中学校区スローメディア推進活動		● 関係する学校名 久留米市立屏水中学校、久留米市立山本小学校、久留米市立草野小学校、久留米市立善導寺小学校、久留米市立大橋小学校、久留米市内幼稚園保育園7園	
開始年度	平成 20 年度	学級数	12 学級	児童・生徒数	355 人
活動内容	<input type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input checked="" type="checkbox"/> その他（基本的生活習慣支援）				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	青少年健全育成協議会
ボランティアの数	登録人数 20 人	属性	PTA 役員、自治会、まちづくり振興会、地域住民		
参考 URL					
● 連絡先	久留米市教育委員会 学校教育課			☎ 0942-30-9217	

● 体制図



● 活動の概要・経緯
 スマホの急激な普及による小学生における所持率の増加や、メディアトラブルの低年齢化の実態のほか、夜更かしなどによる生活リズムの崩れや遊びの場の減少といった状況も全国的に見られている。これらのことを踏まえ、屏水中校区では、就学前の児童からの教育の積み上げを大切に考え、家族の意識を高め、環境整備を行うことを重要視し、平成 20 年からメディアとの付き合い方について、地域ぐるみで取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

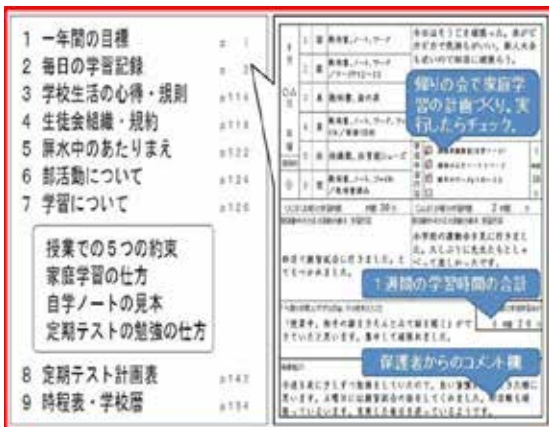
本取組の趣旨は、テレビ、パソコン、スマートフォンなどの映像メディアに接する時間を減らし、親子で会話する時間や本や新聞などの活字メディアに接する機会を増やして学習環境づくりを行うものである。そのために、中学校の定期考査前 1 週間という期間を合わせ、その中学校校区の園児から中学生までとその家庭全体が一緒になって、徹底して取り組んでいる。また、ルールや重点的に取り組む課題については、屏水中学校スローメディア運営委員会が核となって立案を行い、校区の 4 つの小学校や保育園・幼稚園の代表者とともにも熟議をして練り上げ、毎年の取組の方向性を定めている。

【実施にあたっての工夫】

「メディア視聴 2 時間以内」というルールのもと、時間の使い方を自分で考え、読書や勉強や団樂といったものを使っていくために、屏水中学校の生徒は、スローメディア期間中は、屏水ノートに自分のメディア視聴時間や家庭学習の予定を書き込み計画を立てる。それに対し、保護者は、家庭での学習状況を点検し、担任はノートにしっかり目を通したり、コメントで継続を励ましたり、助言したりするなど、屏水ノートで繋がっている。また、屏水中校区で協働して「スローメディア通信」を発行し、小学生や中学生の反応や、成果、保護者の声を掲載し、その効果を広く周知している工夫が見られる。さらには、11 月に行われる屏水フェスタにおいて、教職員・PTA・地域住民で結成されるスローメディア班が劇を披露する中で、子供たちにスローメディアの目的や願いを伝え、取組の啓発を行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

家庭での会話時間の増加、読書時間の増加、学習習慣の定着といった結果がみられた。加えて、中学校 3 年生の全国学力・学習状況調査において、「1 日あたりのゲーム時間」では、2 時間以上ゲームをする屏水中の生徒の割合が全国よりも 8.6% も少なかったり、「1 日あたりの携帯・スマホでのメールや通話時間、インターネットの使用時間」では、5.6% も少なかったりとメディア等に触れる時間をコントロールできる自律力がついたことが何よりの成果であるといえる。



子供・家庭・学校がつながる屏水中ノート



スローメディア通信

ポイント

どこの地域でも課題となっている「メディアとの付き合い方」について、学校での指導だけでなく、地域もその課題解決のために取り組んでいる事例です。この中学校区の取組は参考になります。